



Expand Your World

子どもたちが自らの世界を広げ、
力強く輝いてほしいという
願いがこめられています。

29号

予想以上の工夫が、そこにありました

3クォーター最終日、学習発表会でもお見せしたゲームフェスティバルを終えました。学習発表会では、たくさんの方のアドバイスをいただき、本当にありがとうございました。子どもたちは1年生を楽しませるために、私たちの予想以上にたくさんの工夫をしていました。3つに分けてご紹介します。

1 チームで協力する姿

多くのチームが、うまく相談しながら進めていました。「私は〇〇をするね」「じゃあ僕は、これをやるよ」「私、必要なものを取ってくるね」。そんな声かけがあちこちで聞かれました。1年生が楽しめるゲームにするという目的のもと、それぞれが自分にできることを考えて動いている姿が印象的でした。うまく進んでいるグループほど、笑顔が多かったように思います。

一方で、友達とぶつかることが多かったグループもありました。そんなときに飛び交っていたのは、「私が〇〇しておくね」「私も〇〇したい」「ずるい」といった言葉です。「自分が〇〇したい」という思いは、とても大切なものです。ただチーム探究では、同じ目的のもとで活動しています。**自分の行動がその目的につながっているのか、それとも自分がやりたいだけなのか。**ここを見極めるのは、2年生にとってなかなか難しいことです。

けれども、こうしたぶつかり合いと振り返りを通して、次はどうすればよかったのかを考えていくことが、コミュニケーションのスキルにつながっていきます。ご家庭でお子さんの話を聞かれるときにも、「それはチームのためだった？」という視点で問い返していただけると、子どもたちの学びがさらに深まります。

2 景品の折り紙アート

折り紙のように指先を細かく動かす作業は、集中力や手先の器用さを育みます。今回はそれ以上に、「喜んでもらえる景品を作ろう」という気持ちが作業を支えていたことが印象的でした。

子どもたちは休み時間やご家庭でも進んで作品づくりに励み、心のこもった折り紙がたくさん集まりました。受け取った1年生はとても嬉しそうな顔をして、大事に持ち帰っていきました。1年生の先生方も驚くほどの作品が並んでいました。

3 お店を英語で開くということ

完全に英語だけで運営できたグループは、正直に言えばごく少数です。それでも、ルール説明、スタートの合図、応援の声かけ、時間を数える場面など、さまざまなところで英語が使われていました。今回、子どもたちには「できるだけ英語で取り組もう」と繰り返し伝えてきました。いつか外国に行き、お店で何かを頼むような場面になったとき、今回の学習が生きてくれたらと思います。

1年生を招いてお店を開く活動自体は、全国の小学校でよく行われています。**けれども、それを英語で運営する学校は、なかなかありません。**それだけ高度なことに挑戦した子どもたちと、当日までに何度も繰り返し指導を重ねてくださった英語科の先生方に、心から拍手を送りたいと思います。

1か月にわたるプロジェクトが、これで一区切りとなります。いつも子どもたちの挑戦を支えてくださり、ありがとうございました。

